

3 阿賀野市の上位・関連計画の整理

3.1 阿賀野市総合計画

○総合計画では、公共交通の利用者が減少している現状を踏まえ、市内、市外への交通手段の確保を基本事業として定めている。

計画の概要・基本理念

- ・策定年次:平成 28 年 3 月
- ・計画期間:平成 28 年度～平成 36 年度

◎基本構想 阿賀野市のまちづくりの方向性

- ①五頭連峰、五頭温泉郷、瓢湖などの自然環境、阿賀野川の恵みによって営まれる農業、窯業などの地場産業、こうした地域資源を活かしたまちづくりを進めます。
- ②新潟市に近い地理的条件を活かしたまちづくりを進めます。
- ③安田、京ヶ瀬、水原、笹神の 4 地区の特徴を活かしたまちづくりを進めます。

◎基本計画 まちづくりの目標

元気で明るく活力のある魅力的なまち

公共交通に関する課題・施策

あるべき姿

- ・公共交通が充実し、市民生活における移動の利便性が向上しています。

施策をとりまく環境変化と課題/施策の基本方針

- ・各集落と市役所、各支所、病院等をつなぐ交通機関として、市域全域において運行(11 路線)している市営バスの利用者が年々減少しています。今後、人口減少や少子高齢化の進行により、利用者の一層の減少が予測されます。
- ・利用者の減少に伴って、公共交通サービスの提供が低下すれば、日常生活において移動に困る市民がさらに増えることとなります。こうした事態を避けるため、日常生活を支える基本的サービスとして市営バスの運行を充実するとともに、地域の実情に応じた、市民が利用しやすい公共交通づくりに取り組みます。
- ・通勤・通学者の約 4 割が市外へ移動をしている現状を踏まえ、公共交通機関による市外への移動の利便性の向上を図ります。

成果指標

公共交通機関の満足度

指標名	現状値(平成 27 年度)	目標値(平成 32 年度)
公共交通の満足度	57.0%	65%

基本事業

・市内の交通手段の確保

[あるべき姿]

市内の交通手段が確保され、利用しています。

[成果指標]

指標名	現状値(平成 26 年度)	目標値(平成 32 年度)
市営バスの年間総利用者数	114, 156 人	現在の利用数を維持
市内移動の公共交通機関の満足度	67. 3% (平成 27 年度)	70%

・市外への交通手段の確保※

※2020 年までの基本計画期間に成果向上・維持に注力する分野として指定されている

[あるべき姿]

市外への交通手段が確保され、利用者の利便性が向上しています。

[成果指標]

指標名	現状値(平成 26 年度)	目標値(平成 32 年度)
市外移動の公共交通機関の満足度	46. 6% (平成 27 年度)	60%
水原駅の 1 日平均乗車数	815 人	現状を維持

3.2 阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

○まち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標の方向性として公共交通の充実を図り、利便性の向上を図る戦略を示している。

計画の概要・基本理念

- ・策定年次:平成 27 年 10 月
- ・計画期間:平成 27 年度～平成 31 年度

◎基本目標

1. 子育て環境日本一のまちづくり
2. 健康寿命日本一のまちづくり
3. 安全・安心な暮らしの実現
4. 地域経済の活性化

◎基本的方向性(一部抜粋)

基本目標 4: 地域経済の活性化

○市民生活における移動の利便性向上のため、公共交通の充実を図ります。

公共交通に関する課題・戦略

新たな生活・交流の拠点形成

- ・市民生活の利便性の向上が図られ、また市内外の人との交流が盛んになる拠点づくりを進めます。

[主な取組概要]

にぎわいの拠点となる JR 水原駅の駅前広場や周辺道路の整備について検討を進めます。

市外への交通手段の確保

- ・市外への交通手段を確保し、利用者の利便性の向上を図ります。

[主な取組概要]

市民だれもが容易に市内を行き来できるよう、市営バス運行の一層の効率化を図るとともに、市外への移動の利便性向上のため、JR や路線・高速バスなどの公共交通機関とのアクセス向上を図ります。

市営バスのルートや停留所の位置など、利用促進のための情報提供を行います。

磐越自動車道安田インターチェンジ周辺において、パークアンドライドの利便性を高めます。

3.3 阿賀野市地域公共交通総合連携計画

3.3.1 計画の概要

○総合連携計画では、目標像以下の4つの視点に立ち、目標、施策、事業をとりまとめ、公共交通の方向性を示している。

・策定年次:平成22年3月

4つの視点・基本的方針	概要
(1) 地域住民の自立した日常生活及び社会生活を確保する。	・通勤、通学、通院、買い物等に利用できる利便性の高い生活交通手段を確保する。
(2) 人口増加や就業施設の立地促進等の地域の活性化を図る。	・人口集積が高い地域(人口集積が見込める地域)や就業施設(工業団地、商業施設等)の集積と公共交通が連携するこちにより、地域の活性化を図る。
(3) 観光等の地域間交流の促進を図る。	・商店街(中心市街地)、瓢湖、温泉施設等の商業・観光施設と他地域との交流を促進する。
(4) 地球温暖化対策としての公共交通の利用促進を図る。	・地域のニーズに応じた公共交通とすることで、マイカー等からの利用の転換、利用促進を図る。

3.3.2 計画の評価における進捗状況

総合連携計画内の目標、施策、事業の進捗、達成状況について、以下の基準をもとに整理する。

進捗、達成状況について

評価 A：「着手しており、効果が認められる目標(施策、事業)」が該当する。

評価 B：「着手しているが効果が十分でない目標(施策、事業)、あるいは効果が検証できていない目標(施策、事業)」が該当する。

評価 C：「未着手の目標(施策、事業)、あるいは着手を見送った目標(施策、事業)」が該当する。

(1) 目標の達成状況

目標	概要	取り組んだ内容・評価項目	達成状況	取り組み状況
(1) 高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築	○高齢者、学生、観光客など誰もが、容易かつ快適に利用できる、利便性の高い生活交通手段を構築する。	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市営バスの路線本数、運行本数を維持 ○市営バスの運行ダイヤ、運行経路を住民ニーズにあわせて変更 ○沿線に観光施設が多い五頭温泉郷線の土日祝日運行を維持 <p>[評価項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の満足度(H28 アンケート) <p>【住民】 市営バス、民間路線バスともに全項目(運行ルート、運行回数、運行車両、運賃)で満足度が増加した。</p> <p>【利用者】 市営バスはH22年当時と比較して全項目で満足度が減少、民間路線バスは運行車両に関する満足度が減少したが、運行車両以外の項目は満足度を維持している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市営バスの運行本数 H21:1日95本→H27:1日95本 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バスは、住民ニーズにあわせて変更を行いながら路線本数、運行本数を維持し、高齢者、学生、観光客などが容易に利用できる生活交通手段を確保してきた。 ・しかし、近年は人口減少やマイカー利用の増加などにより、利用者数が減少している。
(2) 市街地整備などに合わせた公共交通を運行することによるまちの活性化	○宅地開発や都市施設整備などの市街地整備に合わせた利便性の高い公共交通を運行することにより、市内の交流を活発にしてまちの活性化に寄与する。	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市街地循環線の試験運行(H28.2~3) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地循環線の試験運行では利用者が低迷し、本格運行の検討には至らなかった。
(3) 市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備	○阿賀野市と周辺市町を結ぶ公共交通を強化し、観光客など市外からの利用者にとって利便性の高い公共交通を提供して、市外との交流を促進する。	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○JR羽越本線の運行本数を維持 <p>[評価項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○JR羽越本線、民間路線バス水原～新潟線の運行本数 JR羽越本線 - H21:1日上下25本→H28:1日上下25本 民間路線バス水原～新潟線 - H21:1日上下55本→H28:1日上下51本 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野市と周辺市町を結ぶJR及び民間路線バスの運行本数をおおむね維持している。
(4) 公共交通の利用促進や環境にやさしい燃料の転換による環境負荷の軽減	○自動車と公共交通の適切な役割分担を図り、良質な公共交通サービスを提供することにより、マイカー利用から公共交通利用への転換を促進し、環境負荷の軽減を図る。また、公共交通の使用燃料についても、環境に配慮する。	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市広報誌の特集、公共交通マップ・時刻表の作成・配布、市営バス情報チラシ配布 ○市職員のノーマイカーデーの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進啓発活動を行い、周知が図られた。 ・一方、環境にやさしい燃料の使用については取り組みが出来なかった。

(2) 施策の達成状況

視点	施策	施策内容	主な実施主体	取り組んだ内容	進捗状況	取り組み状況
「地域住民の自立した日常生活及び社会生活を確保する」視点	1-1 公共交通の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が多く、集落が分散しているため、商業施設や病院等の生活関連施設に向かうための公共交通を確保する。 ○マイカーを利用しない(できない)観光客のために、水原駅等から観光地(観光施設)に向かうため交通手段を確保する。 ○11路線ある市営バスの運行車両について、行き先等が識別しやすい外観や表示方法を工夫するとともに、停留所標識が未設置のバス停における停車位置の明確化、夜間でも見やすい時刻表の導入等により、分かりやすさの向上を図る。 ○市営バスの土日祝日の運行は、ニーズの動向を詳細に調査して実施する。 	阿賀野市	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各地域の各施設を隈なく回るため、市営バスの11路線を維持 ○沿線に観光施設が多い五頭温泉郷線の土日祝日運行を維持 ○路線別カラーマグネットの作成・車両への貼付け ○停留所標識の未設置箇所への設置 ○土曜日運行の実証試験(H22.10~12、H23.10~H24.3) ○寺社線の一部便で日曜日に運行開始(H24.10) ○お盆、年末・年始期間運行の実証試験(H27.8、H27.12) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バスは、住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持し、高齢者、学生、観光客などが容易に利用できる生活交通手段を確保してきた。 ・路線別カラーマグネットの作成やバス停標識の設置などにより市営バスの利用しやすさ、利便性が向上した。今後も継続、充実させていく必要がある。 ・H21実施のアンケート調査において要望が多かった土日祝日の運行については、実証試験を行い利用者数、利用目的などを慎重に検討した結果、寺社線の一部の日曜日運行の開始につながった。 ・全便運休期間としているお盆(8/13~16)、年末・年始(12/29~1/3)の運行については、実証試験を行った結果、利用者数は低迷したが、医療機関の診療日やまちなか活性化への寄与などを考慮し、引き続き検討が必要である。
	1-2 需要に応じた運行方法の導入	<ul style="list-style-type: none"> ○市営バスの収支率(運行経費に対する運賃収入の割合)の低い路線等について、利用者数に合わせた運行方法(デマンド運行等)を検討する。 ○市が運行欠損額(赤字額)を全額補填している路線バスについて、道路運送法第79条による、市が直営で運行する市営バスへの切替えも視野に入れ、運行方法等の見直しを検討する。 	阿賀野市 五泉市 阿賀町 交通事業者	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神山線で自由乗降の運行を実施(H25.10~H26.3) ○利用者数に合わせた新バス車両の導入(H27.11) ○民間路線バス路線の再編(後掲(3)事業1) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・神山線で自由乗降区間を設定し、デマンド運行に近い形での運行を試験的に行った。利用者にはおおむね好評であったが、安全性の確保に課題が残った。なお、従前どおりの路線運行であるため、収支率改善には寄与しない。また、車両の更新に際し、利用者数に合せ、14人乗りの小型車2台を導入した。引き続きデマンド運行等の検討が必要である。 ・市が運行欠損額(赤字額)を全額補填している路線については、乗降調査並びに沿線住民及び利用者アンケートを実施したうえで、再編を行った。
	1-3 運転免許証返納制度との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○運転免許証を自主返納した高齢者に対し、公共交通の利用を促す施策を検討する。 	阿賀野市 阿賀野警察署 阿賀野市交通安全協会	<p>[取り組んだ内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成23年1月以降市営バスの利用料金2年間免除などの運転免許返納支援事業を実施している。平成27年度までで累計461人が返納 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・制度が住民に定着してきており、平成26年度及び27年度はそれぞれ100人前後の自主返納があった。公共交通利用者の増加に一定程度貢献していると考えられる。

視点	施策	施策内容	主な実施主体	取り組んだ内容	進捗状況	取り組み状況
「人口増加や就業施設の立地促進等の地域の活性化を図る」視点	2-1 公共交通を活用したまちの活性化	○市街地整備や地域活性化施策に合わせて、行政、交通事業者及び地域の連携のもと、住民はもとより通勤、通院、買い物、観光等を目的とした来訪者のニーズに合わせたバス運行や交通結節点機能の継続的改善を行い、公共交通を利用した地域間交流を活発にすることで、まちの活性化に寄与する。	阿賀野市	[取り組んだ内容] ○ニーズに合わせて、バスの運行ダイヤ、運行経路を変更(毎年) ○あがの市民病院駐車場整備にあわせて、バス待ち環境を整備(H27.10) ○まちなか交流促進を目的とした市街地循環線の試験運行(H28.2~3)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持してきたことにより、通勤、通学、通院、買い物、観光等の交通手段が確保されている。 ・また、あがの市民病院駐車場整備にあわせて、バス待ち環境を整備したことにより、病院利用者の利便性が向上した。ただし、実施時期の関係で利用者数の検証は今後行うこととする。 ・市街地循環線の試験運行では、利用者が低迷し、本格運行には至っていない。
	2-2 商業施設等との連携	○公共交通の利用促進のため、商店街や商業施設側から、バスを利用する買い物客を対象とした優遇策を検討する。 ○買い物客の利便性向上を図るため、ニーズに応じて、郊外の商業施設へのバス運行を検証するとともに、店舗敷地を活用したバス停やバス待ちスペースを確保する。	阿賀野市 商工会	[取り組んだ内容] ○まちなか交流促進を目的とした市街地循環線の試験運行(H28.2~3) ○市内大型商業施設敷地内への市営バスの運行(H25.10)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地循環線の試験運行では、利用者が低迷し、本格運行には至っていない。商店街等との連携が課題である。 ・大型商業施設敷地内へ市営バスを乗り入れることによって、利用者の利便性が向上した。
	2-3 公共交通の連携強化	○鉄道とバス(市営バス、路線バス)、市営バスと路線バス等、公共交通が、鉄道駅やバス停等でスムーズに接続(相互連携)できるようにする。	阿賀野市	[取り組んだ内容] ○鉄道に合わせた市営バスの運行ダイヤ見直し(毎年)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バスの一部の便において、鉄道及び路線バスとの接続を確保しているが、すべての接続が確保されているものではない。今後も利用者の目的にあわせた接続確保の検討が必要である。 ・五泉・石間方面の路線バスの再編にあわせ、安田地区利用者の高速バスへの接続を確保した。

視点	施策	施策内容	主な実施主体	取り組んだ内容	進捗状況	取り組み状況
「観光等の地域間交流の促進を図る」視点	3-1 公共交通を活用した まちの活性化 【再掲 2-1】	○市街地整備や地域活性化施策に合わせて、行政、交通事業者及び地域の連携のもと、住民はもとより通勤、通院、買い物、観光等を目的とした来訪者のニーズに合わせたバス運行や交通結節点機能の継続的改善を行い、公共交通を利用した地域間交流を活発にすることで、まちの活性化に寄与する。	阿賀野市	[取り組んだ内容] ○ニーズに合わせて、バスの運行ダイヤ、運行経路を変更(毎年) ○あがの市民病院駐車場整備にあわせて、バス待ち環境を整備(H27.10) ○まちなか交流促進を目的とした市街地循環線の試験運行(H28.2~3)	B	・住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持してきたことにより、通勤、通学、通院、買い物、観光等の交通手段が確保されている。 ・また、あがの市民病院駐車場整備にあわせて、バス待ち環境を整備したことにより、病院利用者の利便性が向上した。ただし、実施時期の関係で利用者数の検証は今後行うこととする。 ・市街地循環線の試験運行では、利用者が低迷し、本格運行には至っていない。
	3-2 幹線(バス、鉄道)の 利便性向上	○路線バス(新潟～水原線を除く。)の運行方法等の見直しと併せて、市営バスや鉄道等との接続改善を行い、利用促進を図る。 ○羽越本線の運行本数や運行時刻の改善、新津駅での信越本線、磐越西線との接続改善等、利用促進に向けた検討を行う。	阿賀野市 交通事業者	[取り組んだ内容] ○鉄道に合わせた市営バスの運行ダイヤ見直し(毎年) ○JRへの要望	B	・市営バスの一部の便において、鉄道及び路線バスとの接続を確保しているが、すべての接続が確保されているものではない。今後も利用者の目的にあわせた接続確保の検討が必要である。 ・通勤、通学利用者の多い朝7時台の増便及び新潟駅への直通化の要望をJRに行っているが、実現されていない。
「地球温暖化対策としての公共交通の利用促進を図る」視点	4-1 利用促進のための 多様な情報の提供	【公共交通】 ○市内の鉄道、バス等運行情報(運行時刻、停留所の位置運賃等)、公共交通間の乗り換え情報、パークアンドライド駐車場(水原駅、京ヶ瀬駅、安田IC)等の位置情報等、公共交通の利用方法をまとめた冊子等を作成し、配布する。 ○鉄道駅舎において、バス停位置等の情報を提供できる環境を整備する。 ○運行形態、運賃及び利用方法の公共交通に関する情報を分かりやすく提供する。 【意識啓発】 ○公共交通の意識を市民にPRしながら、マイカー利用から公共交通利用への転換を促す意識啓発を行い、公共交通の利用促進を図る。	阿賀野市	[取り組んだ内容] ○バス運行情報をまとめた冊子を作成、配布(毎年) ○公共交通マップの作製、配布(H22.12) ○市営バス情報チラシ配布 ○市民にバスの親近感をもってもらう活動としてバスを自由に絵を描いてもらうお絵かきバスを実施(H25.8) ○広報に市民バスの特集、ダイヤ等の改正内容を掲載(特集:H27.5、改正:毎年)	B	・意識啓発活動については、広報誌への掲載や「お絵かきバス」の実施など継続的に取り組んでいる。 ・また、公共交通マップや時刻表の作成、配布を通じ公共交通の利用方法の周知に努めているほか、観光地の主要停留所に市営バスと鉄道の接続を掲示するなど観光客の利便性を高める取り組みを行っている。 ・一方、鉄道駅舎での情報提供環境が整備されていないことや掲示板の大型化など情報提供方法に改善の余地があるなど、取り組みに不十分な面もある。
	4-2 環境に配慮した 公共交通の運行	○環境にやさしく、廉価な燃料(てんぷら油の廃油を原料としたBDF等)を使用することで、環境に配慮した市営バスの運行を目指す。	阿賀野市	[取り組んだ内容] —	C	・市営バスへのBDF使用は、取り組みが出来なかった。

(3) 事業の進捗事業

事業	事業概要要約	取り組んだ内容・評価指標	主な実施主体	進捗状況	取り組み状況
<p>事業1</p> <p>路線バス (新潟～水原線を除く。) の運行の改善</p>	<p>◇沿線市町が運行欠損額を全額補填している路線バス3路線 (①阿賀野市役所～堀越～保田車庫前線、②阿賀野市役所～保田～石間中線、③五泉営業所～太田～大曲線)について、 利便性の向上、利用者数の増加及び運行経費の削減等を図るため、運行経路、停留所、運行時刻及び運行方法等について調査及び検討を行い、見直しを行う。</p> <p>【実施項目】</p> <p>(1) 路線バス(新潟～水原線を除く。)の運行経路、停留所、運行時刻、運行方法等の見直し</p> <p>(2) 効果の計測(乗降者数の調査、アンケート調査)ほか</p>	<p>[取り組んだ内容]</p> <p>(1) ①阿賀野市役所～保田車庫前線、②阿賀野市役所～石間中線、③五泉営業所～大曲線の3路線の見直しを行い、i)阿賀野市役所～保田車庫前線、ii)阿賀野市役所～石間中線、iii)阿賀野市役所～五泉営業所線として再編を実施(H26.4)。①と③の一部を統合して新たにiii)とし、①の一部を時刻変更(接続改善)したうえで全体として10便減便し、②の時刻変更(接続改善)を行った。加えて、土休日の運行を取り止めた。</p> <p>(2) 再編の前段として、利用者及び沿線住民アンケート調査の実施(H23.12)。乗降者数調査は事業者資料による。</p> <p>[評価項目]</p> <p>○乗車人員 H22年当時の平均乗車密度(運送収入/1km当り運賃/年間走行km) ①0.8人、②2.0人、③0.7人に対し、H27年実績はi)0.4人、ii)1.7人、iii)1.0人となり、一部路線の統合を行ったiii)は向上し、他の2路線は低下した。</p> <p>○収支率 H22年当時の運行欠損負担額2市1町合計21,694千円に対し、H27実績は16,847千円と減少した。</p> <p>○利用者の満足度(H28アンケート) H22年当時と比較し、運行車両に関する満足度が減少したが、運行ルート、運行回数、運賃の満足度を維持している。</p>	<p>阿賀野市 五泉市 阿賀町 交通事業者</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの再編については、沿線住民及び利用者のアンケート調査を実施し、利用目的及び目的地などの利用状況や利用者ニーズを把握したうえで、重複路線の統合、利用者数の少ない時間帯や土休日の運行取り止めなど、運行の効率化を図った。また、同時に行った時刻変更では、高速バス、路線バス、JRへの接続を考慮した。 この結果、一部路線の統合を行ったiii)の阿賀野市役所～五泉営業所線では利用者数が増加した。 また、時刻変更により利便性が向上した。 さらに、運行の効率化が図られたことで、運行経費が削減され、運行欠損額の補填額も低減した。

事業		事業概要要約	取り組んだ内容・評価指標	主な実施主体	進捗状況	取り組み状況
事業2	市営バス (全路線) の運行の改善	<p>◇乗車率の低い地区において、定時定路線のデマンド運行や、曜日限定の運行等、利用者数に応じた運行を検討し、実証運行を行う。</p> <p>◇利便性の向上を図る施策として、土日祝日の実証運行、主要なバス停標識へのLEDライトの設置、バスの分かりやすい行き先表示等を行う</p> <p>◇運賃に関する施策として、買い物客用割引券、温泉や観光施設の利用者割引券、定期的な割引券(1日券、1ヶ月券)等の導入を検討する。</p> <p>◇バスの燃料として、BDF(てんぷら油等の廃油を原料とした燃料)等の使用を検討し、環境に配慮した運行を目指す。</p> <p>【実施項目】</p> <p>(1) 運行方法の見直し (2) 利便性の向上を図る施策 (3) 運賃に関する施策の検討 (4) 環境に配慮した運行の検討 (5) PR・啓発活動 (6) 効果の計測(乗降者数の調査、アンケート調査)ほか</p>	<p>[取り組んだ内容]</p> <p>(1) 神山線で自由乗降の試験運行を実施 (2) 住民ニーズに合わせ、運行経路、運行ダイヤの見直しを実施、市街地循環線を試験運行 (5) 市民にバスの親近感をもってもらう活動としてバスを自由に絵を描いてもらうお絵かきバスを実施</p> <p>[評価項目]</p> <p>○乗車人員 H21年以降減少傾向にある。ただし、分田、保田地区沿線の一部路線は増加傾向にある。</p> <p>○収支率 料金収入はH19年以降減少傾向にある。</p> <p>○利用者の満足度(H28アンケート) H22年当時と比較して全項目(運行ルート、運行回数、運行車両、運賃)で満足度が減少している。</p>	阿賀野市 阿賀野警察署 阿賀野市交通安全協会 商工会	B	<ul style="list-style-type: none"> 運行方法に関しては、従来の定時定路線を維持しながら、自由乗降の試験運行を実施し、一部の便の曜日限定運行の導入するなど、可能性を検討したが、引き続き検討が必要である。 利便性の向上に関しては、土日祝日の実証運行を行い、寺社線の一部の便の日曜日運行の実施するに至ったほか、運行経路、運行ダイヤを適宜見直すなど継続的な取り組みを実施している。今後も引き続き利便性の向上につながる施策の実施が必要である。 また、PR・啓発活動に関しても、広報誌への掲載をはじめ様々な施策を適宜実施しており、引き続き取り組む必要がある。 なお、運賃に関する施策の検討及び環境に配慮した運行の検討は着手できていない。 以上のとおり、様々な取り組みを実施しているものの、市営バス全体としては、利用者の減少傾向が続いており、施策の見直しが求められていると考えられる。
事業3	モビリティ ・マネジメント の実施	<p>[社会人] に対して</p> <p>◇市役所職員を中心としたノーマイカーデーの実施により、市民に向けて公共交通に対する意識啓発を行う。</p> <p>[住民] に対して</p> <p>◇分田地区及び保田地区等の市営バスの利用者数、運行便数が多い地域において、公共交通に対する意識啓発を行う。</p> <p>[学生] に対して</p> <p>◇小中学生向けに「市営バス夏休みフリーパス」の設定や「市営バス試乗券」等の配布を実施し、また、公共交通の利用方法(バスの乗り方等)について講習会等を開催することで、市営バスを利用する機会の増加を図り、市営バスを始めとする地域の公共交通の親しみや愛着心を持ってもらう。</p> <p>【実施項目】</p> <p>(1) 公共交通時刻表、ポケット時刻表の作成 (2) 鉄道駅舎、商業施設及び病院等へのバス時刻表の提示やバス乗り場案内(バス停の位置情報「サイン」の整備) (3) PR・啓発活動 (4) 効果の計測(乗降者数の調査、アンケート調査)ほか</p>	<p>[取り組んだ内容]</p> <p>(1) 時刻表を毎年配布 (2) あがの市民病院駐車場整備にあわせて、バス待ち環境を整備(バス発車時刻の案内モニタを設置) (3) 高齢者への免許返納支援事業を実施</p> <p>[評価項目]</p> <p>○乗車人員 市営バスはH21年以降減少傾向にある。ただし、分田、保田地区沿線の一部路線は増加傾向にある。</p> <p>○利用者の満足度(H28アンケート) 市営バスはH22年当時と比較して全項目で満足度が減少、民間路線バスは運行車両に関する満足度が減少したが、運行ルート、運行回数、運賃の項目は満足度を維持している。</p>	阿賀野市	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎年の市営バスのダイヤ改正にあわせ、JR・路線バス等市内公共交通の時刻表も盛り込んだ冊子を作成、配布しているほか、商業施設や医療機関などへのバス時刻表や乗り場案内を掲示し、利用者が利用しやすい環境整備に努めている。 また、PR・啓発活動も、広報誌への掲載をはじめ様々な施策を適宜実施している。 しかしながら、公共交通の利用者は年々減少しており、上記事業2「市営バス(全路線)の運行の改善」とあわせ、さらなる充実及び施策の見直しが求められていると考えられる。